



*1 D:ジフテリア、P:百日咳、T:破傷風、IPV:不活化ポリオを表す。IPVは2012年9月1日から、DPT-IPV混合ワクチンは2012年11月1日から定期接種に導入。回数は4回接種ですが、OPV(生ポリオワクチン)を1回接種している場合は、IPVをあと3回接種します。OPVは2012年9月1日以降定期接種としては使用できなくなりました。IPVで接種を開始した場合、DPT-IPVで接種を開始した場合は、それぞれ原則として同じワクチンで接種を完了します。

*2 原則としてMRワクチンを接種。なお、同じ期内で麻疹ワクチンまたは風疹ワクチンのいずれか一方を受けた者、あるいは特に単抗原ワクチンの接種を希望する者は単抗原ワクチンを接種。

*3 第1期・第2期で受けそびれていた人も、平成7年4月2日~平成19年4月1日生まれの人は、20歳未満であれば特例対象者として残りの回数を定期接種として受けられます。なお、平成26年度に8歳または9歳となる者(平成17年4月2日~平成19年4月1日生まれ)への第1期追加、18歳になる者(平成8年4月2日~平成9年4月1日生まれ)への第2期は積極的勧奨の対象となります。

*4 2008年12月19日から国内での接種開始。生後2ヵ月以上5歳未満の間にある者に行うか、標準として生後2ヵ月以上7ヵ月未満で接種を開始すること。接種方法は、通常、生後12ヵ月に至るまでの間に27日以上の間隔で3回皮下接種(医師が必要と認めた場合には20日間隔で接種可能)。接種開始が生後7ヵ月以上12ヵ月未満の場合は、通常、生後12ヵ月に至るまでの間に27日以上の間隔で2回皮下接種(医師が必要と認めた場合には20日間隔で接種可能)。初回接種から7ヵ月以上あけて、1回追加皮下接種(追加)。接種開始が1歳以上5歳未満の場合、通常、1回皮下接種。

*5 2013年11月1日から7価結合型にかわって定期接種に導入。7価を1回受けている人は残り3回を13価で、7価を2回受けている人は残り2回を13価で、7価を3回受けている人は残り1回を13価で受けます。7価を1回も受けていない人は生後2ヵ月以上7ヵ月未満で開始し、27日以上の間隔で3回接種。追加接種は通常、生後12~15ヵ月に1回接種の合計4回接種。接種もれ者には、次のようなスケジュールで接種。生後7ヵ月以上12ヵ月未満の場合: 27日以上の間隔で2回接種したのち、60日間以上あけてかつ1歳以降に1回追加接種。1歳: 60日間以上の間隔で2回接種。2歳以上6歳未満: 1回接種。なお60日以上は、任意接種。

*6 互換性に関するデータがないため、同一のワクチンを3回続けて筋肉内に接種。接種間隔はワクチンによって異なる。

*7 健康保険適用:【HBワクチン】通常、0.25mLを1回、生後12時間以内を目安に皮下接種(被接種者の状況に応じて生後12時間以降とすることも可能。その場合であっても生後できるだけ早期に行う)。更に、0.25mLずつを初回接種の1ヵ月後及び6ヵ月後の2回、皮下接種。ただし、能動的HBs抗体が獲得されていない場合には追加接種。【HBIG(原則としてHBワクチンとの併用)】初回注射は0.5~1.0mLを筋肉内注射。時期は生後5日以内(なお、生後12時間以内が望ましい)。また、追加注射には0.16~0.24mL/kgを投与。平成25年10月18日から接種時期変更(厚労省課長通知)

*8 ロタウイルスワクチンは初回接種を1価で始めた場合は「1価の2回接種」、5価で始めた場合は「5価の3回接種」。1回目の接種は生後14週+6日までに進行することが推奨されています。